一般社団法人ふくやまシュタイナー学園
720-0093　広島県福山市郷分町512
fukuyama.steiner@gmail.com

沿革
2019年　『シュタイナーの会 山びこ』発足
2021年 幼児クラス・初等クラススタート
2022年 オルタナティブスクール段階的にスタート
2023年 全日制ふくやまシュタイナー学園開校
2025年 日本シュタイナー学校協会登録（準会員）
　同年　中等部（中学）開設

HP

LINE

Instagram

Facebook

一般社団法人
ふくやまシュタイナー学園

✿2025年度
初等部～中等部
になりました✿

シュタイナー教育って？

　ドイツを中心に活躍したルドルフ・シュタイナー(1861-1925)が提唱した教育です。「自由への教育」とも言われ、おとなになり社会の一員として自分の個性を自由に発揮できることがこの教育の目的です。この教育では、発達段階に沿った授業や環境づくりが大切にされます。同時に、ひとりひとりの個性へも目を向けます。その人らしく生きるために今大切にすべきことを、外から見える「できるようになったこと」だけでなく、内側にまで目を向けていきます。

学校案内

入学・編入申込方法、各種イベントについては、
HPやSNS等でご確認ください

2025年4月作成

理念

自らの使命を
生きることを通して果たしていける
社会の実現

ビジョン

自分らしさを輝かせること
ひとりひとり、もって生まれたこの地での
「お仕事」がある

世界とわくわくつながること
学びって、わたしが住むこの世界の
できごとなんだ！

あたたかな大きな家族
うちの子も、よその子も

特色 1 発達段階や個性に寄り添った教育

遊ぶことでからだをつくる幼児期。からだが学ぶ準備をし記憶を積み重ねていくことができるようになる学童期。小学１～２年生は、幼児期と学童期の橋渡し期間として大事な時期です。

７歳頃までの子どもは、一見すでにからだが完成しているようでも、内臓などからだの内側は未熟です。この時期に早期教育などで知的に働きかけることは、からだを順調に育てることを妨げます。

こうした背景から、本学園では発達段階を大切にした授業づくりをしています。たとえば、かけ算の学習では、木の実を数え、並べ、描きます。手をたたき、けんけんぱをして数の並びをこころとからだで味わいます。すぐに暗記することは求めず、あえて忘れることのできる期間をもつことで、学びがからだへと沈み込み、自分の力へと育ってゆきます。

また、ひとりひとりの個性に合わせたアプローチをします。落ち着きのない子、想いを表現しにくい子、不安が強い子など、ひとりひとりの子どものあり方を見とり、学校生活の中でその子がその子らしくあるための支援をさりげなく（でも積極的に）していきます。教師と保護者がひとりひとりの子どもについて考え、ともに向き合います。

わたしにとって、ふくシュタはなくてはならない場所です。ふくシュタっ子は、よく「のびのびしているね」と言われます。それは、自分の考えがかたちになるおもしろさを知っていて、からだだけでなくこころからこの場所にいると感じるからだと思います。だから、ありのままのわたしでいられます。そんなこの場所で出会った友だちは信頼できて、まるで家族みたいな存在です。今日も楽しかったから、明日がもっと楽しみ！そんな学校です。（７年　直子）

ふくシュタでの学び

学ぶって、わたしが生きているこの世界のことなんだ

本学園では、子どもの発達に沿った授業をつくっています。教科書は使っておらず、公立小とまったく同じ内容を学ぶわけではありません。しかし、畑で野菜を育てた経験から授業で植物に関する知識へと結びつけるなど、異なるアプローチから公立小で学ぶ内容にも触れられるように工夫しています。

1-2年生

・かず
（数の質、四則計算）
・文字
（漢字、ひらがな）
・イソップ物語
・聖人伝

〇文字

メルヘンの世界に住む低学年の子どもたち。教師がお話を語り子どもひとりひとりがお話をありありと感じます。そして自分のイメージの世界から文字が生まれ出るようにします。文字がその子にとって生きたものであるように。

3-4年生

・旧約聖書　・古事記
・文法　・郷土学
・動物学　・分数
・度量衡（長さ・かさ・重さ）

〇度量衡（長さ・かさ・重さ）

畳の一辺や指の幅など身近なものではかったり、単位を使ってはかったりし、暮らしのなかではかることに親しみます。ひとりひとりが量の感覚を育みます。

5-7年生

・比例・反比例
・利息計算
・文字式
・植物学
・鉱物学
・物理学
（音/光/熱など）
・歴史

〇歴史

当時の人々の暮らしぶりを教師が語り、子どもたちはイメージを膨らませます。そこから子どもたちは問いをもち、本で調べたり、博物館などで見学・質問したりし、昔の考え方や暮らし方に思いを馳せます。

学校の一日（例）

（時）

9	10	11	12	13	14	15
畑	朝の会	①エポック授業	軽食・休憩	②漢字	③音楽	給食・休憩	掃除	帰りの会・下校	④英語	下校	放課後あそび

※エポック授業
シュタイナー学校のメイン授業です。一つのテーマを2～4週間継続して学びます。この期間、子どもたちはじっくりと学び、その世界へ深く浸ります。

担任紹介

山本敦美（やまもとあつみ）

愛称：あっちゃん
すきな言葉　「好きこそものの上手なれ」
すきな教科　算数・数学・音楽

小学４年生頃から「小学校の先生になりたい！」と思いつづけ、教育学部のある大学へ。学生時代に塾講師等を経験し、教える手応えや楽しさを知る。卒業後は、福山市であこがれの小学校教諭に。結婚・出産を経て、育休中にシュタイナー教育教員養成ファウンデーションコース、治癒教育基礎・実践コースにて教育を学び直す。同時期に『自主保育ねっこぼっこ』や『シュタイナーの会 山びこ』を立ち上げ、実践を重ねる。学びと実践を通じ、その子らしさを引き出す手がかりがシュタイナー教育にたくさん詰まっていると強く感じ、2023年、福山市郷分町に『ふくやまシュタイナー学園』を仲間とともに設立。子どもがその子らしく成長していく傍らに寄り添える、「教師」という仕事が楽しくてたまらない。
幼稚園教諭、小学校教諭、中学・高等学校教諭（英語）免許状保有

このほか、専科数名（水彩・漢字・手しごと等）、地域の方（書道・茶道）、保護者（畑しごと）が先生として毎日関わっています。

評価・公立学校との連携について

学びは、子どもがこの世界と出会うことで、評価のためのものではないという考え方から、「できる」「もう少し」等の評価はしていません。代わりに、本学園での成長のあしあとを教師が記述します。それを在籍校へ提出し、成績として記録・保管してもらうなどし、連携を取っています。

在籍	公立学校などへ在籍し、ふくやまシュタイナー学園へ毎日通います。
出席	ふくやまシュタイナー学園での出席が、在籍校での出席となります。
成績	児童の学びや成長の様子を本学園の教師が在籍校の評価項目に沿って文章で記述します。
学習指導要録	学校在籍期間中の出席日数や成績をまとめた書類です。本学園児童の学習指導要録は、本学園における出席と成績をもとに在籍校が作成します。教師が児童を理解する手がかりにしたり、進学時の証明書類として用いたりします。本学園の教師が作成した出席・成績書類は、補助資料として学習指導要録に記録・保管されます。

ふくやまシュタイナー学園

特色 2 保護者が学び、考え、つくりだす

保育所や幼稚園では、子どもについて保護者と先生とが積極的に話し合い、ともに育てていきますが、小学校へ入学すると、学校へ任せるのが当たりという社会の雰囲気はありませんか。

７歳までの教育は一生の土台を築く重要なものですが、それと同じくらい小学生以降の教育も重要です。本学園では、「子どもの発達」「ひとりひとりのようす」「その子に合った環境づくり」「言葉かけのしかた」等についておとなが学びます。そうして、おとなたちが問いをもち、日々の暮らしを紡ぐなかで自分自身がその答えに出会っていきます。

また、本学園では、毎月１回おとなたちが集い、運営に関する会議を開きます。「どうすれば学園がよりよくなるのか」、「どんなことがやってみたいか」などテーマは年間を通して様々です。
教育を誰かがしてくれる「サービス」としてとらえることなく、保護者が学び、考え、つくりだす学校です。

～保護者の声～

もともと畑や食、健康に興味があった私なので、学園での畑しごとや手しごとの時間は子どもだけでなく私もうきうきしながら参加しています。
自分のやりたいこと考えたことを形にできる喜びは大人になっても変わりません。
ここでは、その喜びをみんなで分かち合っています。喜びだけでなく、子育ての悩みも、子どもたちの成長も分かち合いながら支え合いながら励まし合いながら過ごしています。
そんな環境があって、仲間もいて幸せです。

特色 3 人と人とのつながり合い

本学園は教育を柱として、いろいろな人が集いあう場となることを目指しています。ひとりひとりの「やりたい」をかたちにしていく過程で、人と人とが出会い、語り合い、そして支え合うことで、より豊かなものが生み出されていくと考えています。

地域のある方は「茶道を教えたい」と声をかけてくださり、それから高学年の茶道の学びが始まりました。
子どもたちにとっては日本の美しい所作に触れられ、教えてくださる方にとっては「教える」経験を重ねることになっています。

また、本学園のおとなたちの会議では、誰かの意見に従うのではなく、ひとりひとりの考えを大切にし、その背景まで見つめるようにしています。そうすることで、単なる多数決では生まれない、考えと考えが結びついたより豊かなアイディアが新たに生まれています。

福山市郷分町ってどんなところ？

郷分町は、福山駅から車で約15分、山川や田畑に囲まれた自然豊かな地域。「子どもの声が聞こえて元気が出るよ」と、開校当初からあたたかく迎え入れてくださっています。
郷分町の神社のお祭りでは、近年、神輿の担ぎ手の減少が地域の困りごとの一つでした。そんな中、開校を機に、地域から本学園のお父さんに声がかかりました。初対面同士でも、肩を寄せあって神輿を担ぐと、不思議と一体感が生まれていました。
数年ぶりに神輿を担げたことで地域に活気があふれ、お父さんたちも「楽しかった！」と爽やかな汗を流しました。